

国

語

(60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、
左記の注意事項をよく読むこと。

注意事項

- 1、問題冊子は、21ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて、監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

問題は次のページから始まります

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(なお、字数制限のある問いは句読点や「」なども一字にふくみます。)

農業の起源に思いを馳せてみたとき、農業はどのような場所で発展を遂げたと考えられるだろうか。①自然が豊かな場所だろうか、それとも自然の貧しいところだろうか。

恵まれた場所の方が、農業は発達しやすいと思うかも知れない。しかし、実際にはそうではない。自然が豊かな場所では、農業が発達しなくても十分に生きていくことができる。たとえば森の果実や海の魚が豊富な南の島であれば、厳しい労働をしなくても食べていくことができる。

農業というのは重労働である。農業をしなくても暮らせるのであれば、その方が良くに決まっている。そのため、自然が豊かな場所では農業は発展しにくいのだ。

しかし、②自然の貧しいところでは違う。

農業は重労働ではあるが、農業を行うことで、食べ物のない場所に食べ物を作ることができる。食べ物が得られるのであれば、労働は苦ではない。農業による*費用対効果は、自然の貧しいところでは劇的に増加するのだ。

農耕が始まったメソポタミアは、現在では中東地域にあたる。つまりは砂漠地帯である。もちろん、まったくの砂漠では農業などできないから、一般に「*肥沃な三日月地帯」と言われているが、そこは豊かな森ではなく、砂漠の中の肥沃地帯である。砂漠に食糧はない。砂漠に水路を引き、種子を播いて育てれば、革命的に食糧を得ることができる。

農業なしには食べていくことができない。しかし、重労働と引き換えとはいえ、農業をすれば食べていくことができる。農業は貧しい地域で止むにやまれず始まったのである。

農業はどのようにして始まったのだろうか。

人類の進化は謎に包まれているが、人類は草地で進化したと推測されている。

D
C
B
A

草原は食べ物が少ない。こんな厳しい環境で人類は進化を遂げたのである。

森を出た人類は、逆境を乗り越え、さまざまな環境へと広がっていった。

ところが、である。二万年前から一万年前頃になると、地球の気候が変化し、乾燥化や寒冷化が進むと、各地に分散していた人々は生活環境の良い場所を求めて川の周辺に集まってきた。

こうした厳しい環境の中で、多くの人々が生き抜くための術を身につけたのである。それが「農業」である。

農業の発祥の地であるメソポタミアで最初に発達したのは、家畜を飼養する牧畜であった。狩りの対象であったウシやヤギなどの草食動物を飼うことができれば、いつでも肉を手に入れることができる。また、生かして乳を搾れば、動物を殺して失うことなく栄養を摂ることができるのである。

現在でも、西洋では家畜を飼う畜産が盛んである。

人間はイネ科植物の茎や葉を食糧にすることができない。そこで、草食動物にイネ科植物を食べさせて、その動物を食糧にするしかなかったのである。

しかし、種子の落ちない性質を持つ非脱粒性のヒトツブコムギの発見が、人類に農業の道を開いた。

しかも、イネ科植物の種子は、主に炭水化物を蓄積しているので人類の食糧として適している。

④ イネ科植物の種子が炭水化物を大量に持つのは理由がある。

種子が持つ炭水化物は、もともと種子が発芽するためのエネルギーを生み出す栄養分である。

ただし、種子の中には、炭水化物以外にもタンパク質や脂質を栄養源として持つものがある。タンパク質は、植物の体を作るための栄養分である。脂質は炭水化物と同じように発芽のためのエネルギーであるが、炭水化物に比べると膨大なエネルギーを生み出すという特徴がある。脂質をたくさん含むコーン油の原料となるトウモロコシは成長量が大きいし、同じように油を搾るゴマやナタネの種子は、小さい種子に発芽のエネルギーを蓄えているのである。

このように、多くの植物が種子の中に炭水化物だけでなくタンパク質や脂質を含んでいる。E、イネ科の種子は、タンパク質や脂質が少なく、ほとんどが炭水化物なのである。それはなぜだろう。

タンパク質は植物の体を作る基本的な物質だから、種子だけではなく、親の植物にとっても重要な食物である。F、脂質はエネルギー量が大きい代わりに、脂質を作り出すときにはエネルギーを必要とする。つまり、タンパク質や脂質を種子に持たせるためには、親の植物に余裕がないとダメなのだ。

厳しい草原に生きるイネ科植物にそんな余裕はない。G、光合成で得ることができ炭水化物をそのまま種子に蓄え、芽生えは炭水化物をそのままエネルギー源として成長するというシンプルなライフスタイルを作り上げたのである。

それに草原は大型の植物と競争して伸びる必要もないし、H 大きくなっても、草食動物の餌食になるだけである。そのため、種子にタンパク質を蓄えたり、エネルギー量の大きい脂質を蓄える必要もなかったのである。

こうして、イネ科植物は種子に炭水化物を蓄えるようになった。この炭水化物こそが、人類にとって重要な食糧となったのである。

イネ科植物は炭水化物を持つ。この炭水化物は、*咀嚼すれば唾液の中の*酵素の働きで糖となる。「糖」は、人間にとっては魅惑の甘味であり、甘味は人に陶酔感と幸福感をもたらす。

こうして、人類は穀物の虜になっていった。

農業は、安定して食糧を得る手段であるが、重労働を必要とする。人類は、安定した食糧を手に入れた代わりに、労働

しなければならなくなったのである。

そして、農業が生み出すのは、単に食糧だけではない。

種子は食べるだけでなく、保存することができる。保存しておけば翌年の農業の元となるが、残った種子は、人類にある概念を認識させる。

それが「富」である。

人間の胃袋というものは大きさが決まっているから、一人が食べられる量には限度がある。大食漢の人も小食の人もいるだろうが、人間一人が食べる量に、そんなに差があるわけではない。どんなに欲深い人も、お腹いっぱいになれば、それ以上食べることができないのである。

狩猟生活をしていれば、一人で大きな獲物を手に入れたとしても、とても食べ切れるものではないし、欲張って独り占めしようとしても腐らせてしまうだけである。

それならば、たくさん獲れたときには人に分け与え、他人がたくさん獲ったときには、分けてもらった方がいい。冷蔵庫のない大昔は、食糧は保存しておくことができないのだから、みんなで分かち合った方がいいし、その方が安定的に食べることができるのである。

どんなに強い人も、どんなに偉い人も胃袋の大きさは同じであり、食べることのできる量は同じである。食糧の前では人々は平等なのだ。

植物の種子は、良い生育条件になるまで、植物が時期を待ったためのものである。つまりはタイムカプセルのようなものだ。だから、植物の種子はすぐには腐らない。ずっと眠りつづけたまま、腐ることなく生き続ける。それが種子である。

⑥ この種子の特徴は、人間にとっても都合が良い。

植物の種子は、そのときに食べなくても、将来の収穫を約束してくれるものである。保存できるものだから、たくさん

持っていても困るものではない。

保存できるということは、分け与えることもできる。つまり、種子は単なる食糧に留まらない。それは財産であり、分配できる富でもある。

そして富が生まれたのである。

⑦ (I) には (II) があるが、(III) には (IV) がない。

農業をすればするほど、人々は富を得て、力を増していった。そして、富を得れば得るほど、人々はさらに富を求めて、農業を行った。

こうなるともう後戻りはできない。

農業は過酷な労働を必要とするが、一度農業を知ってしまった人類に、農業をやめてのんびり暮らすという選択肢はない。もはや誰も止めることができないのだ。

こうして農業によって人類は人口を増やし、村を作り出し、村を集めて強大な国を作るようになる。「富」を持つ者と持たない者には格差が生まれ、富を求めて、人々は争うようになった。

⑧ こうして、農業の魔力によって、人類は人類となっていくのである。

(稲垣栄洋『世界史を大きく動かした植物』による)

(注)

*費用対効果……投入される費用や作業量に対する成果の割合のこと。コストパフォーマンス。

*肥沃……土地の状態が良く、作物がよくできること。

*咀嚼……かみくだくこと。

*酵素……生体内で営まれる化学反応に作用する物質のこと。

問1 傍線部①「自然が豊かな場所だろうか、それとも自然の貧しいところだろうか」とありますが、「自然が豊かな場所」と「自然の貧しいところ」の具体例として挙げられている場所を、本文中から「自然が豊かな場所」については

三字、「自然の貧しいところ」については九字で抜き出して答えなさい。

問2 傍線部②「自然の貧しいところでは違う」とありますが、その理由を四十五字以内で説明しなさい。

問3 空欄 A 〃 D には、次の各文が入ります。正しい順序に並べ替えて、それぞれ記号で答えなさい。

ア こうした草原で、森の類人猿であった私たちの祖先は、人類へと進化していったと考えられている。

イ そして、赤道西風が届かなくなった大地溝帯の東側では、乾燥が進み、豊かな森林が草原へと変化してしまったのである。

ウ 人類の起源はアフリカ東部と考えられている。

エ 地殻変動によってアフリカ大陸が東西に分裂し、大地溝帯と呼ばれる巨大な谷ができると、湿った赤道西風が、大地溝帯によって遮られるようになった。

※大地溝帯（だいちこうたい）＝アフリカ大陸東部を南北に走る巨大な谷間。

問4 傍線部③「生き抜くための術」とありますが、それはどのようなことを言っていますか。その説明として最も適当なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生活環境に良い場所を求めて、川の周辺に住むことにしたこと。
- イ 草食動物を飼って乳を搾り、動物を殺さずに栄養を摂ったこと。
- ウ 草食動物にイネ科植物を食べさせて、その動物を食料にしたこと。
- エ 炭水化物の豊富なイネ科植物を育てて、その種子を食糧としたこと。
- オ タンパク質や脂質を持つ植物から、豊富なエネルギーを得たこと。

問5 傍線部④「イネ科植物の種子が炭水化物を大量に持つのには理由がある」とありますが、「多くの植物」が種子の中に炭水化物だけでなくタンパク質や脂質を含んでいることを踏まえて、その理由を二点に分けて説明しなさい。ただし必ず、第一の説明は「余裕がないから」、第二の説明は「必要がないから」という表現に続くように、それぞれ三十字以内で書きなさい。

問6 空欄 E H にあてはまることばとして最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上選んではいけません。

- ア そのため
- イ たとえば
- ウ むしろ
- エ ところが
- オ また

問7 傍線部⑤「食糧の前では人々は平等なのだ」とありますが、それはここではどういうことを言っているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 食糧を保存しない限りは、体力や地位に関係なく、食べられる量には大差がないということ。

イ おいしいものを前にすると、腕力わんりょくや身分に関係なく、誰もが食欲をそそられるということ。

ウ 食糧のもたらず栄養は、体力や身分に関係なく、誰にでも同じ効用をもたらすということ。

エ 手に入れた食糧は、腕力や家柄いえがらに関係なく、みんなに同じだけ分配するべきだということ。

オ 食べないと死ぬという事実は、体力や家柄に関係なく、すべての人に共通しているということ。

問8 傍線部⑥「この種子の特徴は、人間にとっても都合が良い」とありますが、その理由がわかるように三十字以内で説明しなさい。

問9 傍線部⑦「(Ⅰ)には(Ⅱ)があるが、(Ⅲ)には(Ⅳ)がない」とありますが、Ⅰ～Ⅳにあてはまる最も適当な語句を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 歯止め イ 限界 ウ 胃袋に入る量 エ 農業によって得られる富

問10 傍線部⑧「人類は人類となっていくのである」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 農業を行うことで、安定的に食べていくことができるようになり、人類が他の動物には見られない、はるかに高い知能を得られたということ。

イ 農業を行うことで、人類は自分以外にもみんなで分かち合って食べるようになり、他の動物には見られない、人間性を獲得できたということ。

ウ 農業を行うことで、毎年安定的に植物の種子を収穫することができるという、人類が他の動物には見られないことをやり始めたということ。

エ 農業を行うことで、富が生まれ、人類に貧富の格差やそれによる争いなど、他の動物には見られないことが起こるようになったということ。

オ 農業を行うことで、富を得るため、つねに過酷な労働になやまされるといいう、他の動物には見られない、人類のあり方が形成されたということ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。一部の方言については標準的な言い方をへへに入れて示しています。
(なお、字数制限のある問いは句読点や「」なども一字にふくみます。)

三日前、俊之は確かに*質屋しちやに向かった。お金を受け取り、アイスクャンディ製造機を手に入れたのは事実である。その日は暑い日だった。俊之は上機嫌じょうきげんで製造機を荷台にに括りつけた。どっしり重い、この鉄の塊かたまりが甘く冷たいアイスクャンディを生み出すと思うと嬉しくなった。榎田神社の前を通る時、境内けいだいからアイスクャンディ売りの声が聞こえてきた。

「そうたいへそうだ、同業者からアイスクャンディ売りの極意ごくいを盗ぬすもう」

俊之はほくそ笑みえ、自転車を榎田神社の中に向けた。バツが悪いのでアイスクャンディ製造機は拾った新聞で覆い隠おほかくした。神社では頭が禿はげ上がった小柄な男がアイスクャンディを売っている。

「おっちゃん、アイスクャンディ一つ」

小柄の禿げ頭が俊之にアイスクャンディを一本差し出した。そのアイスクャンディはなかなかの旨い味うまである。小柄な男の名前は室井むろいといった。

「室井さん、アイスクャンディ売りの極意は何ですかね」

「極意？ そんなもん知つとつたら、もつと幸せな顔をします」

俊之は思わず笑った。確かに室井の顔は*疫病神やくびょうがみにとり憑かれたような不幸丸出しの顔だったのである。が、この疫病神は心優やさしき男のようだ。気が付くと室井の周りに子供達こどもたちがいる。その子供達の身なりは貧しかった。おそらく戦災孤児こじであろう。榎田神社から少し離れた場所はなに孤児院こじいんがあった。子供達が室井をじつと見つめている。室井がにっこり笑い、子供達にアイスクャンディを一本ずつ渡わたした。

「ほれ、*出世しゅせ払いばらでいいけんへいいから」

子供達が室井に一礼し、駆けて行く。それを見て俊之は胸が熱くなった。この不幸丸出しの男が神様に思えた。頭の禿げ上がった室井が俊之に呟いた。

「アイスクャンディ売りのくせに、商売には向かんみたいで」

「タダで子供達にアイスクャンディを？」

「世の中には不幸な子供がまだまだおるとですへいるのですへ、けど今日で廃業です。アイスクャンディ製造機が壊れてしもたんですわへしまったのですよへ」

室井が不幸丸出し顔で笑った。どうやらこの男には新しい製造機を買う余裕などないらしい。俊之は自転車の荷台の新聞紙を剥ぎ取り、買ったばかりのアイスクャンディ製造機を室井の前にどつかと置いた。ほかんとしている室井に俊之は言い放った。

「室井さん、俺の恩を受けちゃってんへ受けてやってよへ。ばってんへだけど、この恩はすぐに水に流しいばいへ流しなさいよへ」

俊之は思ったのである。この不幸丸出しの男こそアイスクャンディを売るべき男なのだ。③

俊之にはとっておきの座右の銘がある。

「与えた恩は水に流せ、受けた恩は石に刻め」

俊之はこの言葉を常に自分に言い聞かせていた。俊之が*半島で生まれ育ち、戦争を経て経験した全てがこの言葉に凝縮されているのだ。人に恩を与え、その見返りを期待すると必ず裏切られ、人を憎むようになる。また恩を与えられた者はそれを返そうとして、肩身の狭い思いをして卑屈になる。人に恩を与えた後は、それを忘れることが幸いである。俊之は他人に恩を与えたことをすぐに忘れた。

が、人から与えられた恩は一生忘れぬ男であった。この考えが俊之の最大の長所であり、最大の欠点でもあった。俊之④

のまわりの人間にはまったく迷惑^{めいわくせんぱん}千万な話である。家族と従業員達は、俊之にいつも振り回された。いくら商売順調でも、これでは家計が*逼迫^{ひっぱく}するのは当たり前であった。

俊之は*中洲^{なかす}を眺^{なが}めていた。俊之は神社でアイスクャンディ売りを見た後、暑^{しよき}氣を払^{はら}うかのよう^{はら}に水辺に足を運んだ。俊之は室井^{むろい}が羨^{うらや}ましかった。あの男は生甲斐^{いきが}を感じているのだ。勿論^{もちろん}、自分にも生甲斐はある。家族と*『ふくのや』……それはわかっていたが、満たされぬ気持ちを埋^うめる事はできなかった。室井の笑顔を思うと、余計に空^{むな}しくなった。中洲^{なかす}の川面^{かわも}を覗^{のぞ}き込むと、自分の顔が映っている。暗く沈^{しず}んだ自分の顔が齒痒^{はがゆ}い。川つべりの木立には蟬^{せみ}の抜け殻^ぬがいくつもあつた。俊之は自分が抜け殻に思えてきた。⑤ そう俺は抜け殻なのだ。そう思うと泣けてきた。

「あんた」

その声に振り返ると、女房^{にようぼう}の千代子^{ちよこ}がいた。俊之は女房に気付かれぬよう涙^{なみだ}を拭^{ぬぐ}った。散歩でもしていたという風に、俊之は中洲の川つべりを歩き始めた。女房が一緒^{いっしょ}に歩き始めた。女房とこうやって散歩するのは久しぶりであった。

「母ちゃん、俺はなして生きるとかいな（どうして生きているのだろうな）」

「家族のため、『ふくのや』のためやろうが」

「俺は、俺だけにしかできんことを探^{たん}そうち思うとる（探^{たん}そうと思つてる）。俺だけにしかのぼせられんモン（夢中になれないもの）を見つけないと」

「うん、うちはのぼせとるお父ちゃんが好いとうけん（好きだから）、元気出し」

俊之は思った。自分だけにしかできないことなど見つかりはしないだろう。女房が自分を覗き込んでいる。出会った時と変わらぬ女房の笑顔に愛おしさが募^つった。

「……母ちゃん、俺は母ちゃんにのぼせる、家族にのぼせる。もう脇見はせんっ」

俊之は決意した。そうだ、自分はこれから夫として、父親として家族にのぼせるのだ。

「俺はなして、こげなへこんな」簡単なことに気付かなかったんやろへ気付かなかったのだろう。ばってん、それを気付かせてくれたんはお前たいへお前だ。有難う、母ちゃん」

「お父ちゃん、うちも頑張るけん」

女房が笑顔で答えてくれた。俊之は目頭が熱くなった。夕暮れが中洲を染めた。戦争の傷跡が残る街が真っ赤に色づいていく。

「夕焼けは釜山と変わらんばいへ変わらんいな」

俊之は風景を見ながら、女房を抱き寄せた。俊之はふと釜山の草梁市場を思い出した。女房との思い出の場所である。

もう二度と訪れることはないであろう異国の故郷が蘇る。俊之には丸みを帯びた中洲の雲が釜山のお惣菜・ミヨンテに見えてきた。俊之の腹の底に熱い想いが込み上げ、それが口から吐き出された！

「ミヨンテ……」

女房がその言葉に微笑んで言った。

「草梁市場にミヨンテが並んどつたな」

「ミヨンテ!？」

「草梁市場のお惣菜……スケトウダラの卵の塩漬け」

「ミヨンテっ！」

「食べたいけど、釜山にしかなかもんねへないものね」

「なかつたら作ればよかるうもんへいいじゃないか！」

俊之は大声を張り上げ、自分が抱き寄せた女房を跳ね除けた！

「スケトウダラの卵やったら日本でも手に入ろう（入るだろう）！俺は日本でミヨンテを作っちゃる（作ってやる）！俺はこれからミヨンテにのぼせる！」

俊之は拳を挙げ、中洲に宣言した。

「ちよつとあんた、あんた！」

俊之は女房を置いてけぼりにして中洲の街を駆け出した。

二時間後、俊之は『ふくのや』の台所にいた。俊之の目の前にあるのは、たった今仕入れたばかりのスケトウダラの卵と大量の唐辛子である。台所にスケトウダラの独特の匂いと、唐辛子の香りが漂いはじめた。ふと気付くと中洲に置いてけぼりにした女房が、台所を覗き込んでいる。

「お父ちゃん、何始めるつもりなん（つもりなの）？」

「母ちゃん、うまか（おいしい）メンタイを作っちゃる」

「メンタイ？」

ミヨンテを漢字で書くと明太となる。俊之はメンタイと呼ぶ方が日本人受けすると思ったのだ。

「この博多にも釜山から引揚げて来たモンがおるけん。あの頃を懐かしんで食べてくれるばい……ハハハ」
俊之は豪快に笑った。

「お父ちゃん、今から夕飯作るけん、台所空けてくれんね（くれないかな）」

「今日は皆で中華料理でも食べて来い」

⑦ 千代子が大きく溜息をついた。

（東憲司『めんたいぴりり』による。なお、問題の都合上、本文を一部改めた。）

(注)

- * 質屋……品物を預かってお金に換えたり、預かった品物を売ったりするところ。
- * 疫病神……疫病をはやせたり、災いをもたらしたりすると考えられた神。
- * 出世払い……将来出世した時に支払うという約束で金品のやり取りをすること。
- * 半島……朝鮮半島。俊之は一九一四年に釜山で生まれた日本人で、当時の朝鮮は日本に併合されていた。
- * 逼迫する……追いつめられてゆとりがなくなること。
- * 中洲……福岡市博多区にある那珂川と博多川に囲まれた地区で、古くからにぎわっていた。
- * ふくのや……戦後、俊之が中洲に開いた食料品店。
- * 引揚げて来たモン……戦争中に外国にいたが、本国にもどって来た人。

問1 波線部A「ほくそ笑み」、B「肩身の狭い思い」とありますが、ここでの意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 「ほくそ笑み」

- ア 機械がとても重いとにが笑いして
- イ 商売を始めるのが嬉しく微笑して
- ウ 事がうまくいくのをひそかに笑い
- エ ひとをだましてやろうと少し笑い
- オ 誠実そうに見えるようほえんで

B 「肩身の狭い思い」

- ア そばで見ていられない思い
- イ 遠慮せずにはいられない思い
- ウ 言葉で表すことができない思い
- エ 人には聞かせられない思い
- オ 忘れることができない思い

問2 傍線部①「バツが悪い」とありますが、これは俊之のどのような心情を表していますか。その説明として最も適當なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 同じアイスクャンディ売りが商売のこつをさぐっていると気づかれると気まずいという心情。
- イ 他のアイスクャンディ売りと同じ場所で商売をしてはいけないと気をつかっている心情。
- ウ 自分がアイスクャンディ売りであることを隠して売り方を学ぼうとずるい考えを抱く心情。
- エ 自分のアイスクャンディ製造機が質屋で買ったものであることを恥ずかしく思う心情。
- オ 重いアイスクャンディ製造機を押しして境内まで行くことが耐えがたいと感じている心情。

問3 傍線部②「ぼかんとしている」とありますが、これは室井のどのようなようすを表していますか。その説明として最も適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 商売道具のアイスクャンディ製造機が壊れてしまい、この先どうするべきか思いなやんでいるようす。
- イ 俊之も同じアイスクャンディ売りであったことを知り、なぜ話しかけてきたのかとふしぎに思うようす。
- ウ 子供達にアイスクャンディをふるまうことができなくなり、やる気をなくしてぼんやりとしているようす。
- エ いきなり目の前にアイスクャンディ製造機を置かれ、どういう意味か分からずにあっけに取られているようす。
- オ 新しいアイスクャンディ製造機をもらえると聞いて、あまりのおどろきのために言葉を失っているようす。

問4 傍線部③「この不幸丸出しの男こそアイスクャンディを売るべき男なのだ」とありますが、俊之がそう考えたのは室井のどのような行動によってですか。次の書き出しに続けて、三十字以内で説明しなさい。

不幸丸出しの室井の、（

）

問5 傍線部④「最大の欠点でもあった」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が苦しい中で、人に恩を与えてその見返りを期待すると、必ず裏切られ人を憎むようになるから。
- イ 自分が苦しいのに、人に恩を与えられるとそれを返そうとして、心苦しく卑屈ひくつになってしまうから。
- ウ 自分が苦しいと、人に恩を与えられたことをすぐに忘れ、まわりの人間がひどく振り回されるから。
- エ 自分が苦しいので、人に恩を返すために家族や従業員までが何かと手伝わされ、混乱させられるから。
- オ 自分が苦しんでも、人に恩を返すためにお金を使うことになるので、周囲の者に迷惑がかかるから。

問6 傍線部⑤「そう俺は抜け殻なのだ」とあるが、俊之がそのように思った理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本当はアイスクャンディ売りになりたかったのに、家族のために『ふくのや』を経営していかねばならず、したくない仕事をする中で、不満足な日々を過ごしているから。

イ 室井も自分も生きがいを持って生きているが、室井が自然と笑顔を浮かべているのに対し、暗く沈んだ表情しかできない自分の不器用な生き方に嫌悪を感じているから。

ウ 川面には笑顔を浮かべる室井と違って、暗く沈んだ自分の顔が映っており、自分が満たされない思いでいることを感じないわけにはいかなかったから。

エ 川面に映る自分の暗く沈んだ顔は、川べりの木立にたくさんある蝉の抜け殻のように、多くの思いに心が乱され、一つに定まらないことを示していたから。

オ 本来、自分はこのにいるべきではなく、蝉が飛び立つように別の所に行きたいと願っているのに、そうすることもかなわない自分が、残された蝉の抜け殻のように感じたから。

問7 傍線部⑥「自分が抱き寄せた女房を跳ね除けた！」とありますが、どうして俊之はそうしたのですか。五十字以内で説明しなさい。

問8 傍線部⑦「千代子が大きく溜息をついた」とありますが、この時の千代子の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が作る夕食を食べたがらない夫に対してあいそをつかす心情。
- イ 夫のひたむき過ぎる性格は変えようがないというあきらめに似た心情。
- ウ 外食することでお金がかかることを考えない夫にいらだつような心情。
- エ 台所を食材でいっぱいにする夫の無神経さをやりきれなく思う心情。
- オ できもしないことをくり返す夫にはつきあいきれないとなげく心情。

問9 本文の内容に当てはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 俊之は室井からアイスクャンディ売りの極意を聞き出そうとしたが、うまくはぐらかされ、結局、今の『ふくのや』の仕事を続けるしかないことに不満であった。
- イ 俊之は室井からアイスクャンディ売りの極意を聞き出そうとしたが、室井は商売人としては成功しておらず、結局、ためになる話が聞けず残念に思った。
- ウ 俊之は室井から受けた恩を返すために、アイスクャンディ製造機が壊れて廃業しようとする室井に、自分が手に入れたアイスクャンディ製造機をタダでゆずった。
- エ 俊之は自分しかできないことをやりたいと思いつながら、それが何かわからなかったが、夕暮れの中洲の風景がきっかけとなって、それを見つけることができた。
- オ 俊之は従業員を使って商売をし、生活には困らなかつたが、毎日の生活に生甲斐が感じられず、豊かではないが笑顔で好きな仕事をする室井をうらやましく思った。

三 次の傍線部のカタカナを漢字に書き改めなさい。

- ① 友人の考え方にキヨウメイする。
- ② 記録をジュリツする。
- ③ 予感がテキチユウする。
- ④ 災害のフツキユウ。
- ⑤ ヘイイな表現に改める。
- ⑥ 若いうちからトウカクをあらわす。
- ⑦ シンソウはいまだに分からない。
- ⑧ 話題をテイキヨウする。
- ⑨ 中小企業にトウシする。
- ⑩ 台風のヨハが残る。



2020A1

↓ここにシールを貼ってください↓

国語 解答用紙

受験番号						
名前						

問8	問6	問5	問3	問2	問1	—
	E		A		自然が豊 かな場所 自然の貧し いところ	
	F		B			
	G		C			
	H		D			
	問7		問4			

⑩	⑦	④	①	問8	問7	問5	問4	問1	二	問9
							不幸丸出しの室井の、	A		I
				問9		問6		B		II
	⑧	⑤	②					問2		III
										IV
	⑨	⑥	③					問3		問10

A日程，英語選択型入試・国語

一

- 問1 [自然が豊かな場所] 南の島
[自然の貧しいところ] 砂漠の中の肥沃地帯
- 問2 食べ物のない場所で食べ物を得られるため、農業という重労働が苦にならず、発展するから。
- 問3 [A] ウ [B] エ [C] イ [D] ア 問4 エ
- 問5 厳しい草原ではタンパク質や脂質を蓄えるためのエネルギーの
(余裕がないから)
大型の植物と競争するために、タンパク質や脂質を蓄える
(必要がないから)
- 問6 [E] エ [F] オ [G] ア [H] ウ 問7 ア
- 問8 種子は保存可能で収穫を保証し、財産となり分配もできるから。
- 問9 [I] ウ [II] イ [III] エ [IV] ア 問10 エ

二

- 問1 [A] ウ [B] イ 問2 ア 問3 エ
- 問4 (不幸丸出しの室井の)
戦災孤児たちに出世払いでアイスキャンディを与えていた行動。
- 問5 オ 問6 ウ
- 問7 ミヨンテを作るという生甲斐を見つけたことに興奮して、女房のことは考えられなくなっているから。
- 問8 イ 問9 エ

- 三 ① 共鳴 ② 樹立 ③ 的中 ④ 復旧 ⑤ 平易
⑥ 頭角 ⑦ 真相 ⑧ 提供 ⑨ 投資 ⑩ 余波

※解答例以外にも正解としたり、得点を与えることがある。